

## 泌尿器科からのご案内

### ESWL（体外衝撃波結石破砕術）の機械を更新しました

今回2017年11月に更新したESWL機器は、最新式の電磁誘導方式衝撃波発生装置を採用しており、高い碎石効率を得られるようになりました。また、従来うつぶせで施行していた骨盤内の結石も仰向けで碎石可能であり、手術中の患者さんの負担を軽減することができるようになりました。体外衝撃波結石破砕術は多くの場合、鎮痛剤の使用程度で施行可能であり、通院で治療可能な点が利点ですが、複数回の治療が必要となる場合があります。また、結石の状態や患者さんの既往症などで本手術が適応とならない場合もありますが、当院では尿管鏡によるレーザー碎石術もおこなっておりますので、結石治療を希望される際は泌尿器科にご相談ください。



体外式衝撃波結石破砕装置 ドルニエ Delta II

## Topics

～11月から1月までの主な出来事を振り返ります～

### 11.25 土曜がんサロン開催

「がんと栄養」をテーマに、がん患者とその家族を対象とした講演会を、当院初の試みとして土曜日に院内で開催しました。



講演の後は、同じ悩みや不安を持った方々との座談会と、希望者には、社会福祉士および社会保険労務士・ハローワーク職員による就労相談を行いました。

11月

### 12.21 小児病棟のクリスマス会



小児病棟に入院されているお子さんを対象に「クリスマス会」を行いました。

### 12.25 クリスマスコンサート



楽友会オーケストラ浜松によるクリスマスコンサートを開催しました。

1階の外来ロビーは、100人以上の方がお見えになり、2階から観覧する人もいました。

### 1.13 市民公開講座開催

アクトシティ浜松コングレスセンター31会議室において、第28回 浜松医療センター市民公開講座「よくわかる！



女性のがん」を開催しました。当日は約200人の方に参加いただきました。

1月

# ふれあい

浜松医療センター広報誌  
No.42(平成30年3月発行)



看護師が予防接種を行う様子

(静岡新聞1月13日掲載(写真提供 静岡新聞社))

渡航する前に「どのようなワクチンや予防薬が必要なのか?」、帰国後に発熱や下痢の症状が出たときに「どの医療機関に相談すればいいのか?」と困ったことはありませんか?

そこで、当院では「海外渡航外来」を新設しました。詳細は、当院のホームページをご覧ください。

## 目次

- ①大腸の新しい検査法  
～『大腸カプセル内視鏡』・『大腸CT』～
- ②極小切開硝子体手術導入について
- ③ESWL（体外衝撃波結石破砕術）の機械を更新しました
- ④TOPICS

〒432-8580 浜松市中区富塚町328

TEL 053 (453) 7111

URL <http://www.hmedc.or.jp>

発行:浜松医療センター



～ ご自由にお持ちください ～

## 消化器内科からのご案内

### 大腸の新しい検査法 ～『大腸カプセル内視鏡』・『大腸CT』～

大腸がんは全てのがんの中で死亡数が二番目に多いがんです。現在大腸がん検診は便潜血検査が行われ、陽性の場合は精密検査として主に大腸内視鏡検査が行われています。近年始まった新しい大腸検査法として『大腸カプセル内視鏡』や『大腸CT』があり、当院で行っている内容を簡単にご紹介します。

大腸カプセル内視鏡は口から飲み込んだ長さ約3cm程のカプセルが大腸を通過しながら画像を撮影していきます。検査中はカプセル内視鏡から送信される画像を記録するためのレコーダを装着します。大腸CTは肛門よりわずかに挿入したチューブから炭酸ガスを送気し大腸を拡張してCTを撮影する検査法になります。

いずれの検査も内視鏡を肛門から直接挿入する大腸内視鏡と比べると肉体的・精神的にも苦痛が少ない検査法といえますが、大腸内視鏡と同様に下剤による前処置は必要です。特に大腸カプセル内視鏡の場合はカプセルをバッテリーの時間内に大腸を通過して肛門から排出させるために、通常の大腸内視鏡より多くの下剤の内服が必要です。また大腸カプセル内視鏡の保険適応は癒着などにより大腸内視鏡の挿入困難な患者さんとされています。大腸CTも、検査精度の点から、当院では主に大腸がん治療前の精密検査や、大腸内視鏡が挿入困難な患者さんを対象として行われています。どちらの検査も前処置の工夫や精度の向上などで今後改良されて広く検査が行われることが期待されています。



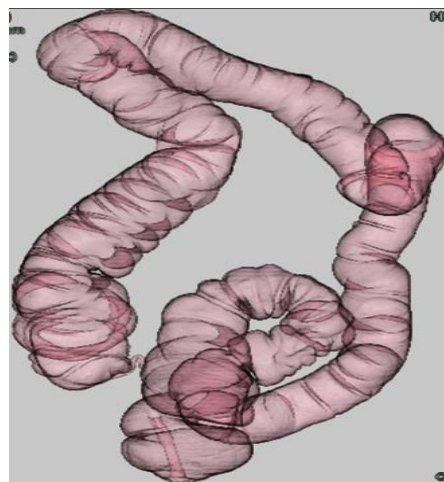
カプセル内視鏡レコーダ装着の様子



カプセル内視鏡本体



カプセル内視鏡画像



大腸CT画像

## 眼科からのご案内

### 極小切開硝子体手術導入について

生活習慣病である糖尿病が原因の視力低下、いわゆる糖尿病網膜症は、以前までは失明原因の第一位でした（現在は第二位。第一位は緑内障）。糖尿病網膜症は、糖尿病の三大合併症の一つです。本人の自覚がないまま進行し目の奥で出血を繰り返し、気がついたときには失明の一步手前ということも珍しくありません。

以前までの糖尿病に対する眼科手術は、手術時間も長く、その回復には二週間程度の入院期間が必要でした。当院では、最新の網膜専門手術機器を導入し、それにより、極小切開の手術が可能となりました。傷が小さいため、術後回復も早く、入院期間も数日間となります。

視力は、生活の質を保つためには非常に重要なものです。何かお困りの症状がある方は、眼科外来に気軽にお尋ねください。



正常な眼底画像



糖尿病網膜症による眼底出血画像